

金澤教報

共学研修会 開催

「是旃陀羅」問題に関する 教区学習会

12月11日、金沢真宗会館ホールにて大窪康充氏（第三上組 浄土寺）を講師に、第一回金沢教区共学研修会（「是旃陀羅」問題学習会）が開催された。

長い間、「是旃陀羅」を誤って解釈し続け、それによって差別を助長してきたのが私たちの宗門である。その歴史を省み、この学習会を通して私たち一人ひとりの問題として受け止めていくことがこの学習会の目的となる。

氏は講義の中で、「是旃陀羅」の



共学研修会 座談会の様子

語句が書かれている『仏説観無量寿経』の「序分」だけに注目するのではなく、『観経』全体を通してこの問題を考えるべきであると述べた。『観経』を読み解く中であきらかになっていくのは、私たち宗門の根本にあるのが「称名念仏」だということである。氏は「差別で苦悩する人とともに生きていくためには、ともにお念仏を称える」というところからしか始まらない」とし、第一回の講義を終えた。

その後4班に分かれ座談会を行い、私の班では「ともにお念仏を称えるにはどうすればいいか」という問いに対して、穢土に住む私たちが差別を見て見ぬふりをする問題などが話し合われた。

第二回学習会は、2026年の1月21日に開催された。「是旃陀羅問題」は今、私たち一人ひとりが問われていることである。

河地良典（第九河北組 傳長寺）

教勢調査教区報告学習会 開催

去る12月19日、金沢真宗会館ホールにおいて、「金沢教区教勢調査報告学習会」が開催された。

教勢調査は、寺院ごと・地域ごとに教化活動の実態と課題を把握するため、定期的に実施されている調査である。今回の学習会では、2024年1月実施の「第8

回教勢調査」の結果をもとに、金沢教区と全国との比較という視点から分析を行った方々を招き、学びを深めた。

報告ではまず、「門徒とのコミュニケーション」の観点から、『同朋新聞』や『寺報』の配布、法要案内などの文書伝道の実施率が、金沢教区は全国平均より大きく下回っていることが示された。日頃の月参りが行われていても、文書を媒介とした継続的な関わりの有無は、将来的な寺院と門徒のつながりを左右する重要な要素である。葬儀をはじめとする仏事が商取引しやすい現代において、信仰を基盤とした丁寧な関係性を育むためにも、日常的なコミュニケーションの積み重ねが教化の根幹であることが確認された。

また宗門全体として、報恩講な



教勢調査教区報告学習会 講師

どの法要・行事の執行率や執行日数は漸減傾向にある一方で、「帰敬式」を実施する寺院は増加している、今後さらに力を注ぐことで、大きな可能性をもつ分野であることが示された。併せて、教区における「子ども会」結成率は全国平均を下回っているものの、若者向けのつどいや聞法会への関心は高まっていて、次世代へとつながる教化として「青少年教化」の重要性が確認された。

この学習会は、現状を正しく知り、課題を共有し、次の一歩を考える貴重な機会となった。

児童教化連盟

「子ども報恩講」

2025年12月28日、児童教化連盟による冬のつどい「子ども報恩講」が勤まりました。当日は、1歳から中学2年生の、計34名の子どもたちが参加しました。

はじめに、子どもも大人も関係なく、手を合わせ、隣の声を聞き、声を揃えて『正信偈』を唱和しました。その後、お話を聞き、未就学児と小・中学生に分かれゲームが行われました。私は小・中学生の担当で、最初に「雑巾リレー」、続いて「冬のつどいゲーム」で遊びました。体を動かし、頭も働かせた内容で、「またやりたい」「あともう一回」という声飛び交い、子どもたちが心から楽しんでい



子ども報恩講の様子

る様子うかがえました。私自身も、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしました。おやつは、坊守方が作ってくれた「白玉豆腐団子」でした。きなこ、あんこ、みたらしと味の工夫もあり、美味しいうにいただきました。

おやつのは、全員で「言葉集めゲーム」をし、子どもから保護者、スタッフみんなで笑ったり悔しがったりして遊びました。最後に紙芝居で子ども報恩講を締めくくりました。

このご時世、子どもと遊ぶといふことは、どうしても慎重さが求められる。子どもを預かるというのは簡単なことではありません。「もし何かあったら」「変なことを教えてしまったら」と気を配らなければならぬ時代です。そんな中で「いま」、みんなと手を合わせ、遊びを通して笑い合っている喜びを感じさせてくれる時間でした。大窪顕晃（第三上組 浄土寺）